

## 「何故、人は変わらないのか」～倫理部会より～

事務局

昨年最後の倫理部会は、日頃経済の立場にいる会員の参加もあり、改めて環境と経済について意見交換した。その中から、先月号のテーマ「何故、人は変わらないのか」に関連する発言をいくつか拾ってみた。

### ○民主主義に代わるシステムが見いだせていないから

- ・私たちは環境問題に対しても、民主主義の枠組みのなかで、手間と時間を掛けて取り組んでいくしかないという意見もあるが、地球の環境容量を超えている現状でそのような余裕があるだろうか。「民意」も全くの自由という訳にはいかないのではないか。
- ・我々は先人たちが勝ち取ってきた民主主義に変わるシステムをまだ見いだせていない。そうした状況で自由を制限する、というのは危険だし、もしそれをするとしても、それは「民意」の結果だろう。
- ・民主主義は手間暇をかける政治であるというが、ポピュリズムは手間暇をかけない政治。日本の場合にはメディアを用いて強引に世論形成を行っており、このことも含め、気候変動にどう対応していくかを考えるのが大切。
- ・第二次石油危機以降、国民は物質的豊かさより心の豊かさを求めているというデータがある。しかし、世論が権力等によって曲げられ、経済成長優先になってしまっているのではないか。

### ○経済と環境が両立する制度が今はないから

- ・新自由主義では、正義についての議論がされなくなった。そして、経済成長につながるものが良しとされ、政治は経済に合わせて動かされるようになった。
- ・現在、様々な企業において環境対策が行われているのも正義だからではなく、企業の損得や存続に繋がるようになってきたから。しかし、グretaさんは環境対策を損得ではなく、正義だからしなくてはいけないと主張した。
- ・経済を「生産と消費を通じて人々が相互に支えあう仕組み」と捉える場合、環境問題対策と経済は相容れない訳ではない。しかし、今の枠組みの今の制度における経済と環境問題対策はバッティングする。
- ・生産と消費の基盤は環境であり、環境が崩れることで経済も崩れていくという意識が多くの経済人にはないのではないか。
- ・経済学は、資源はいくらでもあるという前提で作られたため環境制約はない。また、所有権もはっきりしていないため、経済の枠組みの中に組み込みにくいのではないか。

### ○市民社会が弱いから

- ・市民教育は本来、基礎教育で行われるべきであり、大学は職能教育の役割を担っている。国としてお金をかける以上、国のための人材を育てる、というのは変わらないだろう。
- ・生存に関わっているということに濃淡があり、影響を受けやすいのは貧しい人たち。だからこそ豊かな人々は動かないのかもしれない。民意が分かれている。
- ・公害の時は構造がより単純であったため民意が作り易かったが、環境問題は構造が複雑である上に、世界中での民意を作らなくてはいけないため、より難しい。

(当日全体の議事メモは Web の部会活動をご覧ください)

[http://www.kanbun.org/katudo\\_n/bukai/bukai.html](http://www.kanbun.org/katudo_n/bukai/bukai.html)